

一月二日の紙上

種々の漫

明治廿四年一月二日の時事新報には種々の漫

歳末歳首の廣告

歳末歳首の時事新報に廣告御扱相成度方は可成至急

三十日の紙上に掲ぐるもの 来る廿八日迄

時事新報定例

時事新報一年三百六十五日一日休刊セズ其代價

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字語 一日限 六日限 七日以上

各地方より時事新報の注文に付

時事新報社は注文に接するも代價を受取らざる間は送

時事新報

歳計豫算議案に就て一言

帝國議會に於て重なる議案は申す迄もかく歳計豫算議

ありと論じ去り漢學の書生が銘々の見を以て經書を註

官報

○政府紙幣及銀行紙幣流通高 大蔵省の調査に依る二十三年十一月三十

雑報

○二十三年度横濱内外貿易の實況 本年度に於ける横

各府縣近況(續)

香川縣 東讃の高松は長平家の舊城地にして徳川家の

業者は此際將來の計畫肝要あらんが將來の事は今より

官報

右の表によれば本年は十一月にして昨年より十二月を計

雑報

屑物の概況 本年生絲の不活潑に反對して屑物は割合

各府縣近況(續)

香川縣 東讃の高松は長平家の舊城地にして徳川家の

も云ふ可き懸念あり 方に於ける十兵は互に

官報

○歳晚の市況(昨日の)

雑報

○瑞玉縣議會の新築に

各府縣近況(續)

香川縣 東讃の高松は長平家の舊城地にして徳川家の